

たが、香川県におけるキクモの分布が東讃地区に多く、タチモの分布と重なった結果と思われる。

オグラノフサモでは、他のフサモ属3種に比べ浮葉植物も沈水植物も出現種数が少なかった。オグラノフサモの調査箇所数が少ないこともその一因と思われるが、調査した溜め池においてヒシ類の繁茂が著しい箇所が多かった事が、出現種数の少なさに影響していると思われる。

角野(1994)によればフサモは腐植栄養から貧栄養で酸性の水域に多く、オグラノフサモは中からやや富栄養でアルカリ性の水域に多く、タチモは富栄養化した水域には欠けるか稀であるとしている。今回はフサモ属の生育地の水質調査は行わなかったが、見かけ上の水質を見ると、ホザキノフサモが他の3種に比べ富栄養化した水域まで生育しているのに対し、他の3種はほぼ類似した貧栄養域に生育している様に見えた。

文 献

阿部近一, 1990. 徳島県植物誌. 教育出版センター, 徳島.
 浜島繁隆, 1983. 多変量解析法によるため池の水草のグルーピングの試み. 水草研究会会報 12:4-5.
 角野康郎, 1988. 兵庫県南部のフサモとオグラノフサモ.

植物地理・分類研究 36(2):75.

- 1994. 日本水草図鑑. 文一総合出版, 東京.
 久米 修, 1982. 香川県の水生植物目録. 水草研究会会報 10:8-10.
 ———・納田美也・和気俊郎・大石泰輔, 1987. 新川水系のため池における水生植物相. 香川県自然環境保全指標策定調査研究報告書(新川水系のため池):16-42, 香川県.
 国井秀伸, 1986. 鳥根県松江市近辺の水草相(要旨). 水草研究会会報 25:13-15.
 瀬戸 剛, 1978. 三木茂博士寄贈水草腊葉標本目録, 大阪市立自然史博物館収蔵資料 目録 10. 大阪市立自然史博物館.
 下田路子・橋本卓三, 1993. ため池の水草の分布と水質. 水草研究会会報 49:12-15.
 和気俊郎, 1979. 香川県帰化植物目録(3). 香川生物 8:5-8.
 ———・久米 修, 1990. 香川県における水草分布調査の一事例. 水草研究会会報40:2-8.
 山本四郎, 1978. 愛媛県産植物の種類. 愛媛植物研究会, 今治.

○伊藤 洋編『1998年版埼玉県植物誌』(埼玉県教育委員会発行, 1998年3月, A4版833p., 頒価3,200円)

維管束植物だけでなく苔蘚類, 藻類, 地衣類, 菌類も含めた埼玉県の植物の集大成である。多数の調査員の方が現地調査や標本資料の整理に当たり7年間の年月をかけて完成したというが、この期間でこれだけの植物誌がまとめられたのは、旧版(1962年)の植物誌があったことと、行政の理解あるバックアップがあったためである。そのことは信じられないほど安い頒価にも表れている。

シダ植物ならびに種子植物の部分は、概説のあとにそれぞれの種について形態や分布を中心とした簡潔な解説、そして分布図と続く。保全上の配慮から一部の種の分布図は掲載されていないが、しかるべき手続きを踏めば県立自然史博物館所蔵の資料が利用できるになっている。保全と調査の推進を両立させる新しい試みであろう。資料として今回の調査で見いだされなかった植物の一覧、秩父地方の植物方言、植物学用語集などがついている。

○小林禎樹・黒崎史平・三宅慎也共著『六甲山地の植物誌』(神戸市公園緑化協会発行, 1998年3月, A4版301p.+56図版, 頒価5,300円)

神戸市の北部に広がる六甲山地の植物の現状を緻密な調査で明らかにしたフローラである。まず普通種から初めて写真を見る希少種まで、四季の景観も含めて構成された巻頭48ページのカラー図版に見入ってしまう。撮影アングルひとつとっても著者たちのこだわりが伝わってくる。そのこだわりが徹底してつらぬかれているのが本文である。植物相の特徴や絶滅危惧種の現状を詳しく解説したのち、1693種の目録をまとめる構成になっているが、著者独自の見解が随所に展開され、レベルの高い地方植物誌に仕上がっている。限定された地域を対象にしたものではあるが、植物地理や保全に興味のある者にはたいへん参考になる内容である。

入手御希望の方は、〒673-0865 明石市大蔵谷清水 583-36 小林禎樹氏まで照会されたい。

(角野康郎)